2024_0109「落葉松林の星々（写真）」日々の理科 3442 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

春から秋にかけては、落葉松の林からは星があまり見えません。葉が邪魔をするからです。冬になって葉が落ちると、枝や梢の間から星がよく見えるようになります。その美しさは言葉では表現できません。

天頂（観測者から見て頭上）付近の赤っぽい星は、おうし座の一等星「アルデバラン」です。その周囲の小さな星の集まりは「ヒアデス星団」です。V 字型に見えることから、日本では「釣鐘星（つりがねぼし）」と呼ばれていました。太陽系から約 150 光年の距離と考えられていています。つまり今見ているヒアデスの光は、明治時代のものということになります。

下のほうからは、オリオン座が昇ってきます。天の赤道（天球上の赤緯０度の線）よりも北の星座では、唯一２つの一等星を持つ星座です。右下の「リゲル」は文句なしに一等星です。左上の赤い「ベテルギウス」は、もともと「変光星」で、約 5.9 年周期で明るさが変化する特徴があります。しかし、2019 年から異常に減光し始め、2020 年 1 月から 2 月には、一時期二等星にまで暗くなっかことが、観測で明らかになっています。現在は元のレベルに戻りつつあります。このベテルギウスの異常な減光は、5.9 年周期の小サイクルの減光と、425 年周期の大サイクルの減光が重なった為という説があります。

この落葉松林から見た星々の美しさは、とても言葉では表現できません。外は氷点下 10℃近くの寒さでしたが、その寒さも忘れて見入ってしまいました。

（2024 年 1 月上旬／北軽井沢／ISO；3200／5 秒露光）